

茂木敏充外務大臣による  
アフガニスタンに関するジュネーブ会合におけるステートメント

2020年11月24日

ハーヴィスト・フィンランド外務大臣、  
アトマル・アフガニスタン外務大臣、  
御列席の皆様、

日本は、2001年以降、2度の対アフガニスタン支援会合の開催や、68億ドルの支援実績を含め、アフガニスタンの復興に積極的に貢献してきました。また、昨年御逝去された緒方貞子氏、中村哲氏を始め、多くの日本人がアフガニスタンの復興に尽力してきたことは私たちの誇りであります。

私自身、2002年にアフガニスタンを訪問した際、日本の支援により修復中の病院や学校を視察するとともに、当時財務大臣であったガーニ現大統領、当時外務大臣であったアブドゥラー現国民和解高等評議会議長から、復興に向けた力強い決意を伺ったことを、よく覚えています。

日本は、アフガニスタンで和平交渉が行われていることを歓迎します。交渉進展のため、まずは全ての当事者に、即時かつ包括的な停戦を呼びかけます。そして、交渉が持続的な平和につながることを、また、過去19年間に亘る国造りの取組が維持されることを強く期待しています。

日本は、アフガニスタンの政府及び国民と共にあります。そして、2021年から2024年まで、年間1.8億ドル規模の過去4年間と同水準の支援を維持するよう、努めます。加えて、和平プロセスの進展が見られる場合には、追加的な支援を検討する用意があります。

アフガニスタンが、「変革の10年」の後に真の自立を果たすには、アフガニスタン政府自身による取組が不可欠です。この観点から、「アフガニスタン・パートナーシップ枠組み」の下で、法の支配や汚職撲滅を含む課題に、アフガニスタン政府がしっかりと取り組むことが重要です。日本の支援もそうした努力があって初めて提供されるものです。

また、アフガニスタン政府による「第二次平和と開発のための国家枠組み」の策定を歓迎します。日本は、この枠組みを踏まえ、引き続き、農業・農村開発、教育、保健、インフラといった分野での支援を継続し、アフガニスタンの経済成長を後押ししていきます。同時に、支援の円滑な実施に欠かせない治安分野の支援も継続していきます。

日本は、今後も、アフガニスタンの平和と繁栄と自立のため、貢献していく決意です。

ありがとうございました。

(了)